



サポール

名古屋市立猪子石小学校
通級指導教室通信
令和7年4月24日発行

「けっして子どものせいにしない教育」

一人の子どものことを何人もの大人たちが心配し、あの手この手と工夫し、時に顔と顔を突き合わせて熱く議論し、そして力を合わせて育てようとする。一人の子どもを取り巻く困難な状況に対して「何か自分のできることはないか。」と探す。一人の子どもが、自分ではどうしようもない窮地に陥っているとき、大勢の大人たちが一生懸命になって動く。…

これ以上素晴らしいことがこの地球上で他にあるでしょうか。きっと、子どもとは、大人をそうさせる存在なのでしょう。学校では、そのようにして力を合わせている大人たちの姿こそが、子どもたちの見本となりますのです。私たち教師の仕事は、子どもたちの目の前で毎日行われる特別な職種であり、しかも、その子どもたちを仕事相手にしているという、他とはずいぶん違った職場です。

結局、とりわけ本校のような学校の教職員たちは、この子どもたちによって生かされていて、この子どもたちの不思議な力によって、「大人たちは協力するものだ」と教えられ、当の子どもたちはそうしている大人を見るのがうれしいのです。(以下省略)

【山梨大学教育学部附属特別支援学校 平成21年度研究紀要 前書きより(抜粋)】

上記のように、私たち教師も研修でいろいろ学んでいます。さて、いよいよ通級指導教室での指導が始まります。通級指導教室では、興味・関心があるものを通して、得意なことを伸ばしながら、苦手なことにも取り組めるように、お子さんや保護者の皆さん、担任の先生と話し合いながら支援していきます。取り組みの中で「こんなことができるようになりたい。やってみよう」という気持ちを大事にし、「できた! 分かった! 楽しい!」という充実感・満足感を感じられるようにしていきたいと思います。今年もたくさんの笑顔が見られる通級指導教室にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。